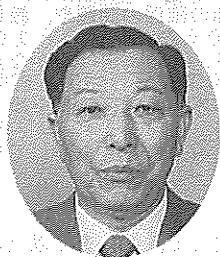
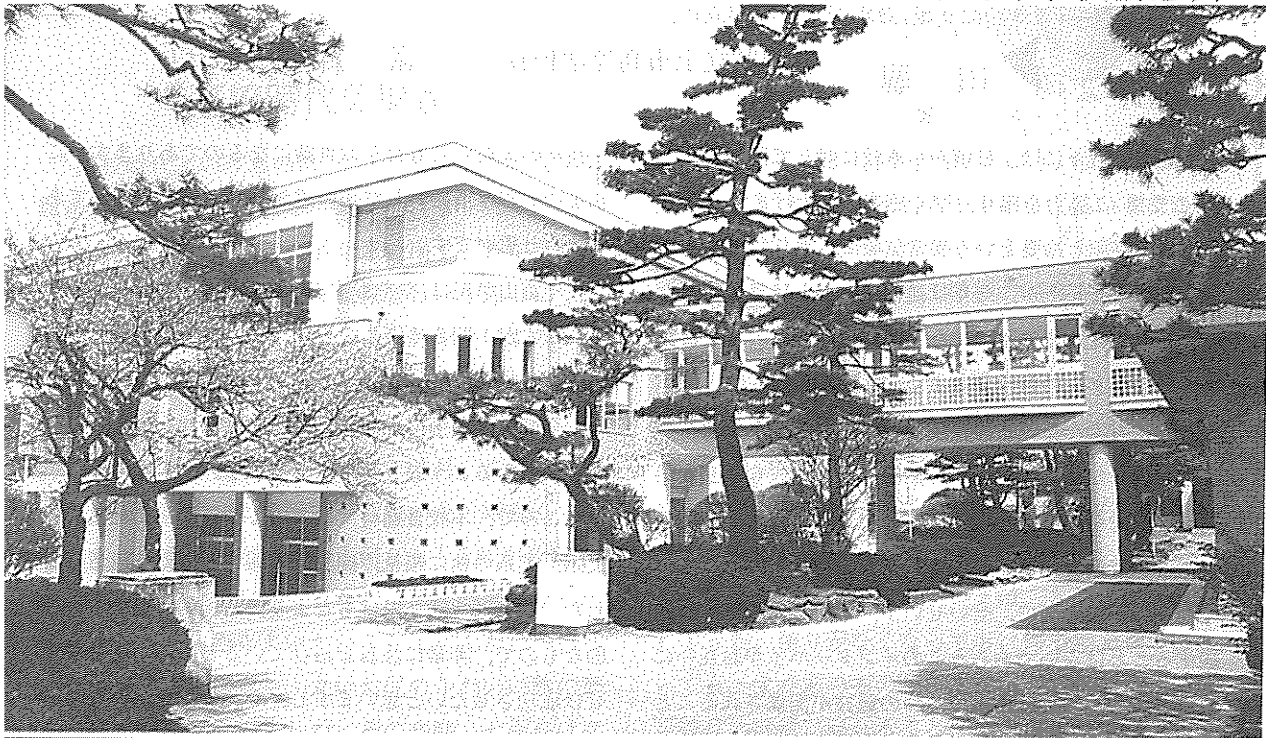


同窓会会報

第42号

平成6年8月21日発行

富山県立上市高等学校同窓会



故、山本宗間先生を偲び、 同窓会の発展を願う

同窓会長 柳 瀬 菊太郎

例年にない猛暑ですが会員各位には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

同窓会も今春 283名の新会員を迎え、累計18,825名の多くの会員となり、夫々各方面で力強く活躍されていますことは誠に喜ばしい限りであります。

思えば、山本宗間先生には34年間の永きにわたり会長として本会の発展を生き甲斐とされ、次々とアイデアを実行され今日の同窓会運営の基礎を築かれました。

「光陰矢の如し」で先生が逝去されて早くも7年になりました。時が経つにつれ先生の本会にかけられた情熱がひひしと想い浮び、物心両面にわたる献身的な母校愛が偲ばれてなりません。母校に対し、10年毎の記念事業はもとより、卒業10年毎の集い、支部活動の強化、婦人

部の育成、友情の碑・中庭の建設等々、多くの業績を残されました。

先生の築かれた業績や精神を無駄にすることなく、更に進展すべく努力したいものと思いを新たにしている所であります。

剱嶺会館が建立された創校70年はつい昨日のようですが、既に5年が経過しそろそろ80年に向けて検討すべき時期となりました。会員各位の一層のご指導、ご支援を切にお願いする次第であります。

終りになりましたが、本年は高校総体が行なわれた関係から学校当局も大変な多忙でしたが、会場設営や資料作りに多大のご苦勞をかけました。厚く御礼を申し上げます。

全国高等学校総合体育大会の開催にあたり



富山県立上市高等学校長 高森 弘

同窓会の方々には、日頃から本校に対して温かいご指導、ご支援、ご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨年は長雨と冷夏という異常気象で、農作物に大きな被害がありました。今年は逆に空梅雨と猛暑の夏となりました。これまで水不足などとは無縁であったここ富山県でも、ダムの貯水量はすでに7月20日現在で、例年の半分にも満たないまでに減量となっているようです。これが、7月31日から開催される平成6年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に大きな影響を与えるのではないかと心配をしているところであります。

我々の一生の間に、せいぜい1、2回しか本県では経験することはないであろうこのインターハイがお互いに現役の時に、この上市町で一つの競技が開催されることは、我々学校関係者にとっても、町当局にとっても非常に有意義なことと思います。

我が国の高等学校の行事としては最大のイベントであるこの大会の運営に、みんなが役員として、あるものは選手として、互いに係われることに大きな喜びを感じざるを得ません。このスポーツの、町に与えるインパクトは極めて大であろうと思います。

また、これまで多くの同窓生の方々が、このインターハイでは他県に温情ある接待を受けてきましたが、今後

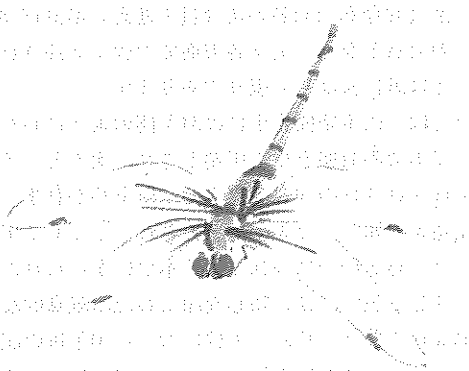
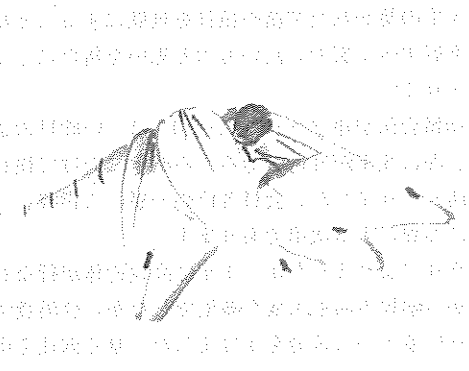
も我々の後輩たちも毎年お世話になるのであります。これまでのご厚情に対して深い感謝の心を込めて迎えてあげたいと思います。

我々富山県民は、ややもすると暗いとか、冷たいとか言われますが、明るく優しい心で、かつ高校生らしく節度ある態度で臨み、いつまでも爽やかで感動的な大会となり、全国の高校生の生涯にわたり忘れられない素晴らしいものとなるよう願うのであります。

ところで、本校普通科ではこの1学年からこれまでの文系、理系の他に福祉、国際、情報の3類型を設置しました。これは北陸3県はもとより、全国的に見ても画期的なもので、非常に注目を浴びているところであります。ぜひ成功させたいと思いますし、その責任を痛感しております。

しかし施設・設備の問題、教師の確保の問題や、教材作りの問題等々多くの課題があり、その解決はなかなか容易ではないようです。今後もいろいろ試行錯誤を繰り返しながら、本校全体の活性化と将来の発展を期して努力する所存であります。

どうか今後とも本校の教育に対して、これまで以上にご理解・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



◇◇◇思い出◇◇◇

卒業40年

◇高校時代の財産◇

「高校時代というものは、それぞれの人生の大切な財産である」といわれるけれども、もう40年の長い歳月を経た今も、高校生活を思い出すと胸が熱くなってきます。もう1年で60歳還暦という節目にさしかかっている年齢にありながら、鮮やかによみがえる青春の日々は、活気と明るさに満ちあふれています。

希望と期待で入学した昭和26年4月、まず驚いたのは、男子寮だった部屋をぶち抜いた、細長くて、暗くて、腰板がはがれている何とも「これが教室？」と言いたい教室でした。しかし、休憩時間になると、中庭（どういったらよいかわかりませんが）へ行って初めて見る七面鳥や、丸いお尻のかわいい豚の挙動に喚声をあげていました。その当時、七面鳥はクリスマスに食べるものだというのを聞いても、どのような料理なのか想像もつかない高校生でした。動物との触れ合いのある生活は私にとって新しい経験でした。

私の財産(?)と言えるものの中に、一冊の本が

上市高等学校普通課程 第6回 (昭和29年3月卒業)

藤田 治子

あります。それは『福翁自伝』という、福沢諭吉の自伝の文庫本です。日本史の先生から「良い本だから読むように」と勧められたのですが、当時の町の本屋にはあろうはずもなく、学校の図書室にもなくずっと気になっていました。東京に出て、大きな本屋でこの本を見つけた時、そして読み終えた時の感動は今も忘れられません。その後、推薦図書といわれれば、『福翁自伝』の名を書き、若い人達に贈ったりもし、この本は私から離れられない座右の1冊になっていきました。

私達の高校時代の財産といえば、友達ではないでしょうか。便りがなくなっても、何十年ぶりに会っても、すぐあの頃の呼び名が出て、なつかしい学生時代の関係に戻れることはすばらしいことだと思います。

人生80年、まだまだの人生、健康に留意してあの高校時代の明るさと元気をバネに、これからもがんばりたいものです。



卒業30年

思い出すままに、

かなり記憶が薄くなってしまった30年前の高校時代を思い出しながら、印象に残っていることを少し書いてみたいと思う。

1. 部、クラブ活動のこと

私の在学した3年間では、野球部の活躍が最も印象に残っている。

須田監督が指導された野球部では、クラスメートも部員として活躍し、大変強かった。

夏の県大会には、毎試合必ず応援に行った。暑さも吹き飛ばすような大きな声援を送る応援団のチームワークの良さにも大きな誇りを感じたものである。

肝心の甲子園大会出場は果たせぬ夢と終り、大変残念な思いをしたものである。

私は体育クラブには加入しないままで終わってしまったが、クラブ活動は、農業クラブの役員を3年間させてもらった。

農業クラブでは、知識・技術の向上を図るため、技術競技大会、プロジェクト発表、田植・稲刈競技会などを行った。役員は校内大会を円滑に行うために、先生と相談をしながら夜遅くまでかかって準備

上市高等学校農業課程 第15回（昭和38年3月卒業）

坂井光夫

したことを思い出す。

2. 勤労・自治・向上の校訓のこと

校訓の三つの言葉のうち、「勤労」という言葉とともに思い出すのが、丸山農場での実習である。

農業科では、1年生から丸山農場での実習があり、農場への往復は全部徒歩であった。

1年生の時はサツマイモ栽培を主に実習した。担当の高井先生の指導を受けて、実習の成果をまとめ、校内でプロジェクト発表をした。

3年生になると、丸山農場に泊り込む宿泊実習があった。宿泊実習では、豚の世話などの農業実習のほか、自分達で食事づくり、掃除・洗濯なども行った。

この宿泊実習を通して、文字どおり「同じ釜の飯を食べた仲間」となった。これからもここで得た貴重な体験と仲間を大切にしていきたい。

今年は、富山県で7月31日から「インターハイ」が開催されている。これからの時代を担っていく在校生の皆さんが大活躍されるとともに、母校がますます発展することを期待しております。

上市高等学校生活科 第36回（昭和59年3月卒業）

片井政子

10年振りに訪れた高校は、随分様変わりをし、校舎や新しい建物が並び、10年の月日の流れを感じます。

立山連峰を仰ぎ、上市川のせせらぎを感じながら学んだ3年間、今振り返ってみて、懐かしさと、楽しかった思い出が頭を駆け巡ります。

現在、生活科はありませんが、私達の心の中には、一生忘れられない大切な時間です。松本先生の愛情に包まれながら過ごした3年間、いろいろな事がありました。卒業式も間近の頃に、先生がぼつりと、

“あなた達程、心配させられたクラスは無かったわ”と、安心された顔は今でも忘れられません。私達の母親同様の存在だった先生に、今は感謝の気持ちで一杯です。

今回十年組みの同窓会を企画して頂いたおかげで、今までほとんど会えなかった人達とこの機会を通じて会えるということは、このうえない楽しみであり、喜びでもあります。今後も20年、30年とこの同窓会が発展していくことを心より願っています。